資料　3

新型インフルエンザ対策総括会議（広報）資料

近畿医療福祉大学　勝田　吉彰

＜ポイント＞
1．「医学的弱毒性　心理的強毒性」の視点でリスクコミュニケーションを！
2．社会不安制御のカギは「流言対策」「イメージ戦略」と「先行きの明示」
3．マスメディアに対するアプローチ拡大を！
4．緊急情報配信サービス（メール）の発展･改良を！
5．広報・リスクコミュニケーション部門に予算増・人員増を！

1．　医学的弱毒性　心理的強毒性の視点でリスクコミュニケーションを！

実際の感染被害に加え、社会不安・心理社会的被害
社会不安の因って来たるところは「流言（噂）」と「先行き不明なこと」
医療現場のモチベーション上げる報道（に結びつく情報発信）を

2．　社会不安制御のカギは「流言対策」「イメージ戦略」と「先行きの明示」

1）流言の量は「重要さ」と「あいまいさ」の積に比例
→社会一般の意識から「あいまいさ」を減らすことがカギ！
→“ちぎっては投げ式”(咀嚼可能量で) こまめ&繰り返しの情報発信が必要。

オルポートとポストマンの法則
R～ｉ×ａ　R：流言　ｉ：重要さ　ａ：あいまいさ

2）イメージ戦略／流言の対抗戦略
「特殊な人がかかる特殊な病気」のイメージ
→差別・阻害・いじめ･風評被害・流言・トラウマ・・・etc の発生
「誰でもかかる普通の病気」のイメージへ
ex　みんなの新型インフルエンザ　（神戸新聞　2009.9.14）

3．　マスメディアに対するアプローチ拡大を！

1）　記者クラブ通じた情報提供に満足せず、記者クラブ外へも接触を。

特に生活系（文化生活部・生活情報センターetc）&科学系

2）　地方紙へのアプローチ

地方紙には安定部数・固定読者との信頼関係下、（あおる必要なく）冷静な報道・生活情報提供が行われていたものが見られる。

都道府県等に対し地方紙へのアプローチ指針提供も検討課題。

3）　ネットメディア等も必要に応じて

4．　緊急情報配信サービス（メール）の発展･改良を！

「黙って座っていても情報が届く」手段は効果的（SARS@北京の実感）

今回、緊急情報配信サービスは有意義であったので、さらに発展・改良を。

ex　携帯画面で内容がわかる工夫を（現状ではタイトルしかわからない）

　　テーマ別の登録可能に（C型肝炎ばかり流れてくると見なくなる）

5．　広報・リスクコミュニケーション部門に人員増・予算増を！

今回、広告業界のプロを導入したのは高く評価できる。

次のステップは広告業界から「チーム」で導入を。

厚労省プロパー人材の広報部門配置も増やし技術の伝承を。

対抗戦略の一例（神戸新聞 2009.9.14）↓

2009.9.14 神戸

随想

みんなの新型インフルエンザ

―― 勝田 吉彰

今回、執筆陣の末席に加えていただくことになった。2006年から兵庫県に職を得て、大学で「精神医学」「精神保健学」「医学概論」といった科目を講じながら、若い人たちと楽しくやっている。兵庫にやって来る前は外務省医務官として、スーダン・フランス・セネガル・中国に合計12年間在勤し、その周辺国など途上国を中心に飛び回っていた。そんな雨々のことを含めてこれから4カ月間お付き合いいただけると幸いである。

さて、外務省勤務で最も鮮明に思い浮かぶのは何かと問われれば、それは「03年北京のSARS（新型肺炎）流行」ということになる。その修羅場で経験した社会不安への対処は、今まさにわれわれの目の前に展開している新型インフルエンザ流行の光景に重なる。

この流行に揺れる今、「インフルエンザはみんなのもの」というメッセージを送りたい。最近、企業や教育現場の保健担当者から「○○さんは濃厚接触者だからヤバイ」と"犯人さがし"が展開していると悩みが寄せられることがある。「ウチで感染者出したらややこしくなるし…」と発生してもいないのに不安を訴える声も多々聞いた。

なぜそういうことになるのか。新型インフルエンザが「特殊な人がかかる特殊な病」だととらえられているところに一因がある。しかし、米国の大統領諮問委員会発表のシナリオでは、今秋冬で全国民30～50%の感染を想定しているし、日本の厚労省発表シナリオでも「国民の2割発症」と明記されている。つまり、あなたの周りに1～4人の人間がいれば、あなたを含め誰かが感染する。そんな「みんなの病気」だと頭にたたき込み、特別視しないで付き合ってゆきたい。

かつだ・よしあき　近畿医療福祉大学（福崎町）教授。1961年京都府生まれ。川崎医大大学院を修了し、オクスフォード大で精神科医療を学ぶ。大学病院勤務などを経て外務省医務官として海外で勤務。著書に「ドクトル外交官世界を診る」など。岡山市在住。

↑白衣の戦士に敬意を！（SARS 期間中現地報道の一例　健康時報 2003.4.19）

＜参考＞　筆者のサイトに送られてきた質疑（流行初期）

（新型インフルエンザ・ウォッチング日記　http://blog.goo.ne.jp/tabibito12）
＊社会一般が求めながら報道されていない情報を反映

＜生活情報を求めるもの＞
空気清浄機の効果について
母子家庭における保育所休業の対処
ＯＲＳ入手法
子供の不安の対処法
家庭療養の注意点
わざと感染して免疫獲得するのはどうか？
＜渡航医学的相談＞
海外赴任時のタミフル入手法
米国にて開催のビーチサッカー大会に行って良いか？
○　○県へ出張の可否
＜医科学的内容＞
ワクチン製造法
遺伝子再集合
豚インフルエンザは新型インフルエンザか？
Ｈ，Ｎの意味
カナダ先住民に多い理由
ハイリスク群
気象との関連（湿度・温度）
豚感染のＨ５Ｎ１
診断の仕組み
季節性と新型の遺伝子交雑可能性
＜政策＞
法令の解釈
ワクチン接種の優先順位
報道対応について
移動禁止の必要性
帰国者の受診先
＜その他＞
神戸の様子は？
欧米と日本の状況が違う理由

表：SARS期間中の現地報道
医療現場モチベーション向上指向が著明

見出し	内容	新聞名	日付	写真
白衣戦士に尊敬を！	全国SARS患者3106名中1/5の653名が医療従事者。銃弾こそ無いものの真の戦士である。	健康時報	2003.4.29	涙を浮かべ抱き合うスタッフ
一致団結しSARSと戦う 白衣の天使　無私奉献	現場医師・看護師の働きぶり紹介	光明日報	2003.5.2	なし
白衣天使に鮮花が贈られる	困難な条件下で勤務するICUの看護師に花束が贈られた	健康報	2003.5.27	看護師に花束
市要人、SARS一線で戦う医師家族を慰問	北京市要人・共産党要人が、SARS医療で病院に缶詰になっている医師留守宅訪問し家族を慰問	北京日報	2003.5.16	なし
今年は戦場で前線兵士の鼓舞　今日は病院で前線天使の	芸能人、戦場同様に病院でも慰問演芸	北京晨報	2003.5.28	スター2名と病院スタッフ
白衣天使の父母の心を敬う SARS攻撃第一現場	父ICU主任医師、母整形外科医師。中学入学前の息子の写真を手に語る	北京青年報	2003.6.27	息子の写真を指差す手
「国家隊」の戦闘準備	SARS指定病院のWHO視察／SARS病棟設備の取材・紹介	健康報	2003.4.21	なし
低死亡率の背景	中日友好病院におけるSARS入院者223名に対し死亡5名。背景にクオリティコントロール。詳細（医療の質監督員、専門医回診、WHO専門家アドバイス、西洋医学・漢方医学併用治療	健康報	2003.6.10	なし
面白いこと	院内で行われた催しなど（スタッフへプレゼント贈呈、患者慰問など）	健康報	2003.6.8	プレゼント贈呈式、ベッドサイドで花束贈呈
老看護師　危険な第一線へ	病院全スタッフは帰宅を許されず近くのホテルに宿泊。高医師は子供の具合悪いが母親にあずけ任務へ。黄医師は結婚延期しSARSと戦う。陳看護師は夫が公安戦士で家には子供一人残され、毎日電話で声を聞く状態だが動揺みられず。劉看護師は今月定年予定だったが定年延長してSARS戦線第	北京日報	2003. 5. 14	なし
医療人員の心理的サポート	SARS医療人員の心理健康プログラム始動。スタッフに孤独・緊張・恐怖感あり、反応・不安焦燥・パニック見られる。カウンセラー派遣、カウンセリングとともに音楽療法も。	北京娯楽信報	2003.5.5	なし
医療人員心理健康プログラム	カウンセリング、音楽療法	北京晨報	2003.5.5	なし
妻子に祝福を	医師と看護師の夫婦が同じ職場でSARSに立ち向かう	北京晨報	2003.5.12	手をつなぐ医師と看護師のカップル
骨折にもかかわらず患者救う	呼吸器科主任医師が尾骨骨折にもかかわらずSARS医療チームの陣頭指揮をとった	北京晨報	2003.6.18	なし
専門家チーム全力出撃	中日友好病院に専門家チーム編成。呼吸器科・腎臓科・内分泌科・循環器科・免疫科・漢方医学科・放射線科からなり高度医療を提供	北京晨報	2003.6.17	なし

表:SARS期間中の現地報道
医療現場モチベーション向上指向が著明

まず建設、そして改造	SARS収束後の指定病院。一旦閉鎖し完全消毒後、改装して一般病棟へ転換の計画	北京晨報	2003.6.8	なし
天使の練習展	レクリエーション活動おこないSARSと戦う団結確認	北京晨報	2003.6.3	運動会風の競技風景
日本大使館が日中友好のため援助	日本大使館・商会・日本人会が27万元をSARS治療と医療スタッフ休養のため寄贈	北京晨報	2003.6.7	なし
攻撃SARS第一現場	4名の白衣戦士が病院を出て宿舎に戻るところ	北京青年報	2003.5.21	勤務を終わりホテルへ向かうスタッフ
休む間もない記念日	国際看護記念日。院内看護師の様子	人民日報	2003.5.13	患者とともに折鶴、送迎バス内風景
私は看護師私は誇り	救急部看護師長取材。現在SARS病棟勤務。	北京労働保障	2003年6期	劉看護師長